

抗ヒスタミン剤

※ **d-クロルフェニラミンマレイン酸塩シロップ0.04%「トowa」**

《d-クロルフェニラミンマレイン酸塩シロップ》  
 d-CHLORPHENIRAMINE MALEATE SYRUP 0.04% “TOWA”

貯 法：室温保存、気密容器  
 使用期限：外箱、ラベルに記載

日本標準商品分類番号 874419		
承認番号	薬価収載	販売開始
22500AMX01127	2013年12月	1981年9月

※※【禁忌（次の患者には投与しないこと）】

- 1) 本剤の成分又は類似化合物に対し過敏症の既往歴のある患者
- ※※2) 閉塞隅角緑内障の患者〔抗コリン作用により眼圧が上昇し、症状を悪化させることがある。〕
- 3) 前立腺肥大等下部尿路に閉塞性疾患のある患者〔抗コリン作用により排尿困難、尿閉等があらわれ、症状が増悪することがある。〕
- 4) 低出生体重児・新生児（「小児等への投与」の項参照）

【組成・性状】

1 mL中の有効成分	日局 d-クロルフェニラミンマレイン酸塩 ……0.4mg
添加物	精製白糖、D-ソルビトール液、パラオキシ安息香酸メチル、パラオキシ安息香酸プロピル、香料、pH調整剤（塩酸、水酸化Na）
性状	無色澄明な液で、芳香があり、味は甘い。
pH	4.0～6.0

【効能・効果】

じん麻疹、血管運動性浮腫、枯草熱、皮膚疾患に伴うそう痒（湿疹・皮膚炎、皮膚そう痒症、薬疹）、アレルギー性鼻炎、血管運動性鼻炎、感冒等上気道炎に伴うくしゃみ・鼻汁・咳嗽

【用法・用量】

d-クロルフェニラミンマレイン酸塩として、通常成人1回2mgを、1日1～4回経口投与する。  
 なお、年齢、症状により適宜増減する。

※※【使用上の注意】

1. 慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）
- ※※1) 開放隅角緑内障の患者〔抗コリン作用により眼圧が上昇し、症状を悪化させることがある。〕
- 2) 眼内圧亢進のある患者〔抗コリン作用により眼内圧が上昇し、症状が増悪するおそれがある。〕
- 3) 甲状腺機能亢進症のある患者〔抗コリン作用により症状が増悪するおそれがある。〕
- 4) 狭窄性消化性潰瘍、幽門十二指腸通過障害のある患者〔抗コリン作用により平滑筋の運動抑制、緊張低下が起り、症状が増悪するおそれがある。〕
- 5) 循環器系疾患のある患者〔抗コリン作用による心血管系への作用により、症状が増悪するおそれがある。〕
- 6) 高血圧症のある患者〔抗コリン作用により血管拡張が抑制され、血圧が上昇するおそれがある。〕

2. 重要な基本的注意

眠気を催すことがあるので、本剤投与中の患者には自動車の運転等危険を伴う機械の操作には従事させないよう十分注意すること。

3. 相互作用

併用注意（併用に注意すること）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
中枢神経抑制剤 アルコール MAO阻害剤 抗コリン作用を有する薬剤	相互に作用を増強することがあるので、併用する場合には減量するなど慎重に投与すること。	中枢神経抑制剤、アルコール： 本剤の中枢抑制作用により、作用が増強される。 MAO阻害剤： 本剤の解毒機構に干渉し、作用を遷延化し増強することがある。
ドロキシドパ ノルアドレナリン	併用により血圧の異常上昇を来すおそれがある。	本剤はヒスタミンによる毛細血管拡張を抑制する。

4. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

1) 重大な副作用（頻度不明）

- (1) ショック：ショックを起こすことがあるので、観察を十分に行い、チアノーゼ、呼吸困難、胸内苦悶、血圧低下等の症状があらわれた場合には、投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- (2) 痙攣、錯乱：痙攣、錯乱があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常があらわれた場合には、減量又は休薬等適切な処置を行うこと。
- (3) 再生不良性貧血、無顆粒球症：再生不良性貧血、無顆粒球症があらわれることがあるので、血液検査を行うなど観察を十分に行い、異常が認められた場合には、投与を中止すること。

2) その他の副作用

	頻度不明
過敏症 <sup>注1)</sup>	発疹、光線過敏症等
精神神経系	鎮静、神経過敏、頭痛、焦燥感、複視、眠気、不眠、めまい、耳鳴、前庭障害、多幸症、情緒不安、ヒステリー、振戦、神経炎、協調異常、感覚異常、霧視等
消化器	口渇、胸やけ、食欲不振、悪心・嘔吐、腹痛、便秘、下痢等
泌尿器	頻尿、排尿困難、尿閉等
循環器 <sup>注2)</sup>	低血圧、心悸亢進、頻脈、期外収縮

	頻度不明
呼吸器	鼻及び気道の乾燥、気管分泌液の粘性化、喘鳴、鼻閉等
血液	溶血性貧血、血小板減少
肝臓	肝機能障害(AST(GOT)上昇・ALT(GPT)上昇・Al-P上昇等)
その他	悪寒、発汗異常、疲労感、胸痛、月経異常

注1) 症状があらわれた場合には投与を中止すること。

注2) 症状があらわれた場合には減量又は休薬等適切な処置を行うこと。

#### 5. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているため、患者の状態を観察しながら慎重に投与すること。

#### 6. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

妊婦又は妊娠している可能性のある女性には、治療上の有益性が危険性を上まわると判断される場合にのみ投与すること。  
[妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。]

#### 7. 小児等への投与

低出生体重児、新生児には投与しないこと。[中枢神経系興奮等の抗コリン作用に対する感受性が高く、痙攣等の重篤な反応があらわれるおそれがある。]

### ※【薬物動態】

#### ※生物学的同等性試験

<参考資料>

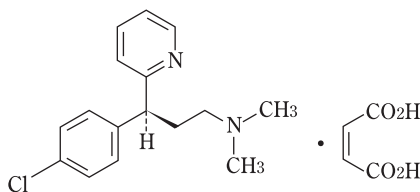
d-クロルフェニラミンマレイン酸塩シロップ0.04%「トーフ」と標準製剤をクロスオーバー法によりそれぞれ20mL (d-クロルフェニラミンマレイン酸塩として8mg)雄性家兎(n=10)に絶食単回経口投与し、血漿中未変化体及び代謝物濃度について比較検討した結果、両製剤のバイオアベイラビリティには有意差のないことが推定された<sup>1)</sup>。

### 【薬効薬理】

H<sub>1</sub>受容体を介するヒスタミンによるアレルギー性反応（毛細血管の拡張と透過性亢進、気管支平滑筋の収縮、知覚神経終末刺激によるそう痒、など）を抑制する<sup>2)</sup>。

### 【有効成分に関する理化学的知見】

構造式：



一般名：d-クロルフェニラミンマレイン酸塩  
(d-Chlorpheniramine Maleate)

別名：d-マレイン酸クロルフェニラミン

化学名：(3S)-3-(4-Chlorophenyl)-N,N-dimethyl-3-pyridin-2-ylpropylamine monomaleate

分子式：C<sub>16</sub>H<sub>19</sub>ClN<sub>2</sub> · C<sub>4</sub>H<sub>4</sub>O<sub>4</sub>

分子量：390.86

性状：白色の結晶性の粉末である。水、メタノール又は酢酸(100)に極めて溶けやすく、N,N-ジメチルホルムアミド又はエタノール(99.5)に溶けやすい。希塩酸に溶ける。

融点：111~115℃

### ※【取扱い上の注意】

#### ※安定性試験

最終包装製品を用いた長期保存試験（室温、3年）の結果、d-クロルフェニラミンマレイン酸塩シロップ0.04%「トーフ」は通常の市場流通下において3年間安定であることが確認された<sup>3)</sup>。

### ※【包装】

※d-クロルフェニラミンマレイン酸塩シロップ0.04%「トーフ」：  
500mL

### 【主要文献】

- 1) 東和薬品株式会社 社内資料：生物学的同等性試験
- 2) 第十六改正日本薬局方解説書、C-1530、2011
- 3) 東和薬品株式会社 社内資料：安定性試験

### 【文献請求先・製品情報お問い合わせ先】

主要文献（社内資料を含む）は下記にご請求下さい。

東和薬品株式会社 学術部DIセンター（24時間受付対応）

〒571-8580 大阪府門真市新橋町2番11号

☎0120-108-932 TEL 06-6900-9108 FAX 06-6908-5797

<http://www.towayakuhin.co.jp/forstaff>

製造販売元

**東和薬品株式会社**

大阪府門真市新橋町2番11号